

昭和19年11月24日 金曜日 晴

初めての空襲

十一月二十四日		金曜日		校長印	
要		摘		度 温 象 氣	
二、午前11時50分米機約70機の来襲あり、		三、被弾約70被弾甚大なり。		四、被害状況に付午後5時地方事務所に報告（清水教員特使）	
出席児童總數		缺席児童總數		計	
男		女		男	
初等		高等		男	
女		男		女	

(意訳)

一、柴山教頭 府中に出張

二、午前11時50分米機約70機の来襲あり、

三、当校児童5名爆死

四、被害状況に付午後5時地方事務所に報告（清水教員特使）

当時の保谷小学校教諭の手記によると、11月24日が空爆を受けた最初の日であり、警報を受けると訓練した通りに各担当の先生が生徒を家に送り届けた。先生が、比留間君を家に送り届けて帰る途中、爆音がして振り返ると比留間君の家が焼夷弾の直撃を受けて、親子共に爆死されたのが、学童の最初の被害者となった。

『保谷の被爆記 空襲下の教員生活』より